

京都大学薬学部 SGD 演習レポート  
第 8 回後半・第 9 回・第 10 回 薬学研究基礎

授業実施日：2018 年 5 月 30 日（水）5 限、6 月 6 日（水）4・5 限、  
6 月 13 日（水）4 限・5 限  
担当教員：山下富義教授・竹本佳司教授・中津亨准教授・矢野義明講師  
対象学生：薬学部 1 回生 80 名（4 クラス）  
場所：医薬系総合研究棟 2 階 講義室 A・C、薬学部本館講義室 22・23

### 授業の概要

京都大学薬学部では、4 年次に研究室に配属されます。今回の SGD 演習では、授業の一環として、研究室を学生が訪問しました。学生自身でアポイントメントを取り、研究室で聞きたい質問を事前に用意して訪問を行いました。訪問後は、自分たちの研究室で見たり聞いたりしてきたことを資料にまとめ、教室ごとにプレゼンテーションを行いました。

### 授業の場面

#### 1. 研究室見学の概要説明、質問の準備（90 分）（5 月 30 日（水）5 限）

まず、研究室見学の流れに関して、説明が行われました。その後、翌週の研究室訪問に際して、自分たちがどんなことを聞きたいかを話し合う時間がとられました。



#### 2. 研究室訪問（90 分）（6 月 6 日（水）4 限）

グループごとに訪問予定の研究室に連絡を取り、訪問先で教員や大学院生とディスカッションを行いました。

#### 3. プレゼンテーションの方法の説明（15 分）（6 月 6 日（水）5 限）

研究室訪問で見聞きしたことを他の学生と共有するためのプレゼンテーションの方法に関して、説明がありました。薬学部らしく、科学研究の発表方法として有名な IMRAD 法（Introduction, Methods, Results, and Discussion）と関連

付けて、「イントロ」「本文」「まとめ」という3つのステップでプレゼンテーションを構成すると、聞き手にとってわかりやすいことが説明されました。見やすいスライドや、話し方、引用の方法などといった点に関しても、丁寧に説明が行われました。

#### 4. 発表資料の作成 (40分) (6月6日(水)4限)

見学内容のまとめ、追加で調査すべきこと、発表において予想される質問と受け答えなどを、研究室訪問を行ったグループごとに話し合いました。グループでの話し合いでは、まずはだれが何を担当するのかという役割分担から始めるグループもあれば、みんなで話し合うことから始めるグループもあり、様々なやり方でプレゼンへの準備を進めました。たとえば、「研究内容については、ホームページを見ればわかることだから、自分たちは研究室の様子、先生がどういう人か、などを中心に伝えたほうがよいのではないか?」といった点について、グループ内で話し合いながら、資料の作成を行っていました。

#### 5. プレゼンの練習 (40分) (6月13日(水)4限)

作成した資料をプロジェクターに映し出して、グループごとにプレゼンの練習を行いました。

#### 6. プレゼン本番 (80分) (6月13日(水)4限)

1グループにつき、プレゼン15分+質疑応答5分=20分の時間が与えられました。研究室での研究内容や実験器具、教授の人柄、研究室の雰囲気や求められる能力などについて、プレゼンが行われました。また、この授業において以前扱った内容である、動物実験の是非について、研究室としての考えを質問し、それを発表したグループもありました。



#### 印象に残った点

動物実験について質問してきたグループは、これまでの授業と関連付けて研

研究室でのインタビューを行っているということになります。一回一回の授業をしっかりと自分たちの中で積み重ねていこうとする姿勢は素晴らしいと思いました。また、これに対する教授の回答「科学研究の競争が激しい現在において、規制するなら、各国で一斉に規制を行う必要がある」も、科学の第一線で働く研究者ならではの回答であるように感じられました。

記事作成者：高等教育研究開発推進センター研究員 長沼祥太郎

監修：高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代